

会員の皆様、

このたびCCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤー2024の日本人受賞者が決定し、表彰式を開催する運びとなりましたので、是非皆様ご出席くださいますようお願い申し上げます。8月にはブラジル人受賞者としてブラジル銀行のタルシアナ・メデイロス頭取に同賞が贈られました。

王子ホールディングス（HD、東京）の磯野裕之社長は、ブラジルと日本間のビジネスへの功績が認められ、11月にCCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤーを受賞されます。授賞式では、同社がブラジル国内で展開するプロジェクトの詳細についてお話しいただく予定です。

今月のニュースレターでは、最近ブラジルに長期滞在され、現地でアフロブラジル文化への知見を深められたという東京外国語大学の武田千香教授にご寄稿いただきました。

そのほか、ブラジル銀行の子ども向けサービスや、ブラジルの電動モーター製造メーカーWEG社がグローバル生産拡大のためにポルトガルに開設した新工場、ブラジル原産の植物を使った燃料製造に関する記事も掲載しましたので、是非ご覧ください。

どうぞよろしくお願いします。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(寄稿)

ブラジル滞在記

―身に染みたありがたさ & ありがたくなかったこと―

東京外国語大学

武田千香教授

今年、久しぶりにブラジルに長く滞在する機会を得て、4月から7月までの3か月をリオデジャネイロで過ごした。長めの滞在は前回の2008年以来16年ぶりだった。この間、身に染みてありがたかったこと、ありがたくないこと、いろいろあった。

何よりも身に染みてありがたかったのは友人の存在だ。この間、友人たちはいろいろな場所に誘ってくれた。予定のない日がほとんどないほどに充実した90日を過ごせたのは、ひとえにブラジルならではの、家族のような深い愛情と親しみに溢れる友人のおかげだ。最前列のチームの応援団に囲まれてのサッカー観戦（熱量に圧倒された！）、帝政時代の避暑地サンタクルスへの街道のドライブ（かねてからの希望が適い、感動した！）、黒人文化の息づく地区の散策（みなぎる活力に元気をもらった！）、ブラジル音楽のコンサート（素晴らしい夜だった！）、その他書ききれないほどの文化施設や名所旧跡巡り……、実にさまざまなところへ友人と行き、多くの有意義な体験をさせてもらった。その中でも印象深く、私の研究にとっても貴重だったのはウンバンダの儀式体験とキロンボ訪問だった。

数年前にコンセイサオン・エヴァリストの小説『ポンシア・ヴィセンシオ』を読み、その力強さと深みに圧倒されて以来、私の関心はアフロブラジル文学に向いている。ブラジルのダイナミズムが息づくその文学の世界に、大げさに聞こえるかもしれないが、私はついに以前から求めていたものに出会えたような気すらした。近年ブラジルではアフリカにルーツを持つ作家の活躍が目覚ましく、2020年はイタマール・ヴィエイラ・ジュニオール『曲がった鋤』、21年にはジェフェルソン・テノーリオ『皮膚の内側』（以上2作は長編小説部門）、22年はエリアーナ・アウヴィス・クルス『ドレス』（短編小説部門）と、3年連続してブラジルの代表的文学賞であるジャブチ文学賞をアフリカ系作家が受賞した。『曲がった鋤』は、一昨年ブラジル大使館のブラジル独立200周年の記念事業の一環として水声社から翻訳出版されているので、ご関心のある方はぜひ読んでいただければ幸いである。アフリカをルーツとする人々や文化への関心が以前に増して高まったことは今回の滞在で強く感じたことだ。テレビでも連日話題に取り上げられていた。

さて文学は、書物を読むだけでももちろん十分に愉しめるが、それが書かれた地域や作家が生まれ育った場所、あるいは作品の舞台に実際に身を置くと、味わいはさらに深くなる。今回の目的はまさにそれだった。アフロブラジル・コミュニティへの訪問や、宗教儀式への参加などの現地でしかできない文化体験や、博物館や史跡などの見学を通してアフロブラジル文化の知見を獲得し、文学の理解を深めることだ。ただ博物館なら一人でも行けるが、コミュニティや宗教施設となると、突然よそ者が行ってもなかなか受け入れてもらえない。そんなとき友人の助けが本当にありがたかった。

ウンバンダへは、^{カーザ}教会に役員を務める知り合いがいる友人が連れていってくれた。しかも毎月、合計3回も。4月は聖ジョルジと習合したオリシャのオグン、5月はアフリカの祖先の象徴である霊的指導者プレット・ヴェーリヨ、6月は神々と人間の伝達を媒介する神霊エシユを祝う重要な儀式に参加できた。温かく迎えられ、儀式がよく見える席に座り、通常なら禁止の写真や動画の撮影も、授業や自分の研究のために使うだけならばという条件で特別に許可してもらえたのも友人のおかげだった。それまで私はカンドンブレの儀式にしか行ったことがなく、お恥ずかしいことにアフロブラジル宗教といえばカンドンブレこそ代表だと思っていたが、それは誤解だった。ウンバンダこそもっともブラジルの宗教だと何人かの知り合いから聞いていたが、得心できていなかったのだ。たしかに実際に行くと、そこはみごとに多様な信仰が混じり合ういかにもブラジルらしい空間だった。祀られていたのはアフリカの神々のオリシャやキリスト教のイエスキリストや諸聖人、そしてブラジルで生まれた神霊のマランドロやポンバ・ジューラ、そこまでであれば想像がついたが、なんと仏様までが掲げられていた。そしてその空間は、宗教施設によく漂う神秘性や厳かさというより、定期的に仲間が集う共同体のような温かな雰囲気にも包まれていた。そしてポイントと呼ばれる儀式の歌も、まるでホーダ・ジ・サンバのような楽しさがあった。何よりも驚いたのは来場者の9割ほどが白人だったことだ。もちろんウンバンダも多様だから、それだけでの判断は禁物で、そうでない場所もあるはずだ。だがアフロブラジル宗教といえば、カンドンブレの映像でよく見るアフリカ的なものを連想する私の固定観念は打ち砕かれた。

キロンボは、「逃亡奴隷の集落」としてよく知られるが、1988年憲法で土地所有権の賦与が義務付けられて以来、元キロンボ共同体 (comunidade remanescente de quilombo) も一般的にはキロンボと呼ばれている。このキロンボこそ、伝手が無い限り、なかなか訪れることはできない。それが実現できたのは INCRA (Instituto Nacional de Colonização e Reforma Agrária - 国立植民農地改革院) に勤務する友人が、サンパウロ州東部にあるキロンボを訪れるときに同行させてくれたおかげだった。INCRAは元キロンボ共同体の法的所有権の認定を行なっている。そこではキロンボの人々の苦難の歴史や現在直面する課題、そして彼らの文化について話を聞くことができた。その後サルヴァドールで訪れたキロンボと比較することでキロンボの多様性にも気づかされた。同じキロンボという名称で括ら

れても、地域によって共同体の成り立ちも住民の構成も文化も違う。たとえばサルヴァドールで訪問したキロンボは、カンドンプレの祭儀場テヘイロが中心的役割を果たし、アフリカの伝統を色濃く残しているが、サンパウロのものはテヘイロもなく、むしろカトリックの伝統を残っていた。

最後にありがたくなかったこと……、それは円安だ。まさに私がブラジルに発つや否や円は下がり始め、戻ってくる頃に底を打った。このせいでブラジルはすべてが高価だった。昼食をどれだけポルキ口で切り詰めてもすぐに1500円～2000円に届いてしまう。日本では普段の昼食にそんなにかけない。リオの地下鉄も円換算で230円、日本よりも高い。友人からは、円で考えちゃだめだと言われたが、円で給与をもらう身としては考えないわけにはいかなかった。さて帰国するや否や、円は戻り始め、今や3月のレートと同じ、何とも恨めしい展開である。思い返せば2008年もリーマンショックで同じような思いをした。どうやら私は為替に関しては雨女のようなのだ。ただそれを差し引いても、ブラジルの物価は以前に比べ確実に高くなっている。これも日本の国力の低下の一つの表われなのだろうか……。

ブラジル銀行の子ども向け口座

ブラジル銀行の子ども向け口座は、期間の定めがなく、毎日利息がつく口座で、保護者（法定代理人）または本人（18歳未満）自ら開設できます。年齢の下限はなく0歳から開設可能です。学費など将来の支出に備えて貯蓄するだけでなく、この口座を使って預金や投資を行うことは、子どもたちが金融システムに慣れる上でも有効です。

詳細はこちら: <https://www.bb.com.br/site/japao/conta-menor/>

WEG ポルトガルに新工場開設

WEG社は今月、ポルトガルのサント・ティルソに新工場を開設しました。産業用低電圧モータを製造する既存の工場は、面積1万6300平方メートルですが、隣接する新工場（STI2）の面積は約2万2000平方メートルで、マイア市にある同社の工場の機能も移転されます。新工場の開設により、大型電動機やLV配電盤、産業用ドライブの生産拡大を目指します。

出所：WEG

ブラジル原産の植物で燃料製造へ

ブラジル国立経済社会開発銀行（BNDES）は、エネルギーや燃料の原料として注目されるブラジル原産の植物であるマカウバの栽培と研究開発に特化した技術革新センター「Acelen Agripark」設立のため、Acelen社に対して2億5790万レアルの資金提供を行う計画を承認しました。同施設は、マカウバの栽培化や荒廃地での栽培のための研究・開発に基づいて、再生可能ディーゼル（RD）と持続可能航空燃料（SAF）を生産するプロジェクトの一端を担っています。「未来の燃料」と言われるSAFの開発のためにBNDESが融資を行うのは今回が初となります。

詳細はこちら：<https://agenciagov.ebc.com.br/noticias/202410/bndes-aprova-r-258-milhoes-acelen-desenvolvimento-macau-ba-combustiveis>

出所：ブラジル連邦政府

CCBJ Awards Person of the Year 2024

「CCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤーご案内」

在日ブラジル商工会議所(CCBJ)は、ブラジルと日本の経済関係強化に功績のあった企業家を表彰する「CCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤー」の授賞式・レセプションを開催いたしますのでご案内申し上げます。

今回はブラジルにおいてパルプ・製紙・植林プロジェクトを50年に亘って継続し、日伯経済関係の強化において多大な貢献をされ、当会議所の多くの会員から高く評価される王子ホールディング株式会社 代表取締役社長 磯野裕之様に「パーソン・オブ・ザ・イヤー」を授与して表彰するものです。

授賞式では、磯野様からのご挨拶も予定されております。本イベントの開催は駐日ブラジル大使館のご協力の下おこなわれ、会場として大使館をご提供いただきました。

式典次第は以下の通りです：

日時：2024年11月29日（金）18:30時～21時

（18時より）受付開始

場所：駐日ブラジル大使館

住所：〒107-8633 東京都港区北青山 2-11-12

※ドレスコード：ビジネス

※尚、駐車場はございませんので公共の交通機関でお越しください。

【Programa / プログラム】

18:00～18:30 受付

18:30 講堂での式典

18:30～18:40 オタヴィオ・コルテス駐日ブラジル大使ご挨拶

18:40～18:50 開会 CCBJ 行徳セルソ会頭挨拶

18:50～19:20 CCBJ アワード授与式、磯野社長ご挨拶

19:20～19:25 記念撮影

19:25 講堂をご退出、マナブ・マベホールへ移動

19:25～19:35 外務省中南米局乾杯ご挨拶

19:35～21:00 レセプション・懇親会

【参加費】

会員 ¥10,000 非会員 ¥12,000

※参加費に関しましては、11月25日迄に銀行振り込みにてお支払下さるようお願い申し上げます。

※お振り込みに際しまして請求書が必要な場合はCCBJにご連絡下さい。

※なお、準備の都合上、11月20日(水)までにお申し込み頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

▲事前お振り込み先▲

三菱UFJ銀行

青山通支店（０８４）（普）

口座番号：０１８１７８６

（シャ）ザイニチブラジルショウコウカイギショ

※また、ご都合によりキャンセルされる場合は１１月２２日（金）までにお申し出ください。

※尚、期日までにご連絡なく欠席された場合は、恐れ入りますが参加費全額をご請求させていただきます旨、予めご了承ください。

下記リンクよりお申込み下さい。

<https://forms.gle/JrrGXEgKZLM1MaZw5>